

1 基本情報

施策名	2 - 2 みどりを育み活かすまちづくり				戦略名	みどり活用プロジェクト		
担当	主担当部	市民環境経済部	主担当課	環境課				
	部長名	岡田 光一	関係課	都市計画課	教育支援課	生涯学習課		

2 取組目標(Plan)

取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ●豊かなみどりがあふれる白井市の良質な環境を、市民とともに守り、育むことで、愛着と誇りを持てるまちづくりを進めます。 ●市民一人ひとりがみどりの環境の大切さを認識し、豊かなみどりを守り、次世代に残すための取組を展開します。 ●森や河川、田園など市街地の外側に広がるみどりと市街地内の緑地や樹木などのみどりがチェーンのようにつながり、みどりが持つ暮らしを豊かにする多様な可能性を活かします。
求める成果	<ul style="list-style-type: none"> ・市民にみどりを自ら守るという意識が醸成される。 ⇒豊かなみどりの環境を次世代につなげるまちになる。

3 令和4年(2022年)度取組状況(Do①)

取組1 白井の自然環境の豊かさを知り育むための環境学習の推進

取組方針	・学校や市民団体などと連携し、みどりが形成されてきた歴史やその貴重さなどに関する学習機会を充実します。					
求める取組成果	・環境保全に取り組む市民や市民団体が増え、行政との協働により、みどりの環境が保全される。					
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・市民団体等との協働による環境フォーラムや環境学習講座等を開催した。 ・各小中学校の教育計画に基づき、学習や体験等を取り入れた環境授業を実施した。 ・市民大学校等の講座において、地球温暖化対策（CO₂削減）や環境保全等に関するカリキュラムを実施した。 ・市民団体、大学、隣接市との共催で里山学校を実施した。 ※東邦大学と生物多様性に関する協定を締結した。					
構成事業	1	環境学習推進事業	現状のまま継続			

取組2 市民によるみどりのネットワークづくりに対する支援

取組方針	・市民団体が自ら、道路沿いなどの身近なみどりを育て、みどりのネットワークをつくる活動を進めます。					
求める取組成果	・環境保全に取り組む市民や市民団体が増え、行政との協働により、みどりの環境が保全される。					
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の沿道に草花を植栽する団体に対し、草花の苗等の購入経費の一部を補助した。(R4(2022)年度実績：48団体) ・補助金を交付した団体に、団体名を記載した専用のプレートを配布した。 ・市HPや広報による事業の周知をした。 ・環境課窓口や白井環境フォーラムで団体の植えた草花等をパネル展示で紹介し、市民に本事業の取組を周知した。 					
構成事業	2	沿道みどりの推進事業	改善して継続			

取組3 地域での環境保全や創出の取組としてのグラウンドワークの推進

取組方針	・みどりの地域資源を守り、育む活動など、地域や市民団体などが連携した取組を進めます。					
求める取組成果	・環境保全に取り組む市民や市民団体が増え、行政との協働により、みどりの環境が保全される。					
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・市民団体との協働による神々廻弁天池での花壇づくりを継続して行った。 ・企業の協力でゴルフの使用済みボールを利用し、花壇のなし坊の補修や除草など適切な維持管理を実施した。 ・千葉大学大学院生（園芸学研究所「環境健康プロジェクト演習」）の演習受講者と共催により、小学生を対象とした森の保全体験型イベントを開催した。 					
構成事業	3	森のグラウンドワーク推進事業	改善して継続			

取組4 自然とのふれあいや癒しの場としての里山の保全と活用

取組方針	・市民や市民団体などと協働し、（仮称）谷田・清戸市民の森など、里山を積極的に保全・活用します。					
求める取組成果	・環境保全に取り組む市民や市民団体が増え、行政との協働により、良好なみどりの環境保全が持続できる。					
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・都市建設部局（都市計画課）と区域の設定や整備にあたっての課題の共有を行った。 ・気候変動適応や生物多様性の推進に関する検討を行った。 ・市民団体と連携して、原っぱの草刈りや森の枝等の除伐を行った。 ※東邦大学と生物多様性に関する協定を締結した。 ・（仮）谷田・清戸市民の森整備事業については、新たな活用の取組は進められたものの、整備に係る方針や区域の確定など隣接地権者との調整や合意形成が課題となっている。					
構成事業	4	（仮称）谷田・清戸市民の森整備事業	改善して継続			

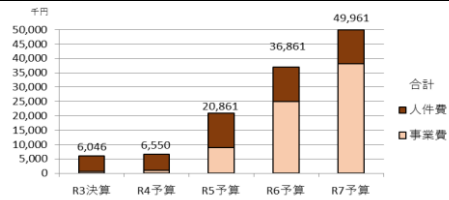
4 施策展開の状況(Do②)

改善した取組	<ul style="list-style-type: none"> 沿道みどりの推進事業については、複数の団体が協働してできるよう団体間の調整や植栽のアドバイスをを行いみどりのネットワークの形成に努めた。
他分野他施策との連携	<ul style="list-style-type: none"> 環境学習推進事業は、教育委員会（小中学校）との連携を強め実施した。 ①小学校庁舎見学の際、環境課業務の説明や展示している生物と環境との関係を説明し、環境に対する興味の高揚に努めた。 ②中学生を対象とする脱炭素未来ワークショップの実施について、千葉大学教員等の有識者との調整を連携して行い円滑に授業が実施された。
市民等との情報共有、参加・協働	<ul style="list-style-type: none"> 市民団体等と協働して環境保全活動の契機となるよう環境フォーラムや環境学習講座を開催して、市民の自然環境に対する興味・関心の向上を図った。 東邦大学と生物多様性に関する協定を締結したことにより、環境を保全する市有地（谷田清戸）等の新たな取組の構築の一助とした。

5 施策推進コスト(Do③)

(千円、%)

年度 項目	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
事業費	612	649	1,041	24,969	38,069
正職員人件費	5,434	5,382	5,606	11,911	11,911
合計	6,046	6,031	6,647	36,880	49,980
プロジェクト内割合	36.7%	66.7%	53.9%	90.5%	92.6%



6 1次評価(Check①&Action①)

(目標値設定の考え方は白井市第5次総合計画後期基本計画書の82頁を参照ください)

評価項目	指標名	単位	基準値/基準年度	目標値		実績値					
				R7 (2025)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)		
定量的評価	取組指標	市民団体との協働による環境保全活動数(累計)	回	-	-	30	24	26			
		環境活動を行う団体数	団体	56	R1 (2019)	62	66	63			
	成果指標	自然保護活動に取り組む市民の割合	%	1.8	R1 (2019)	2.3	8.9	16.3			
		環境美化活動に取り組む市民の割合	%	7.0	R1 (2019)	8.0	18.5	23.3			
定性的評価	<ul style="list-style-type: none"> 環境学習事業や森のグラウンドワーク推進事業では、自然に触れ合う機会が少ない小中学生のCO₂削減の重要性やSDGsの取組に対する理解の促進等環境意識の醸成に寄与することができた。 沿道みどりの推進事業では、市民団体が自ら緑化活動を行ったが、今後は、複数団体の協働によるみどりのネットワークづくりの拡充が必要となる。 (仮)谷田・清戸市民の森整備事業に係わり、新たな活用の取組については進められたものの、整備に係る方針や区域の確定など隣接地権者との調整や合意形成が課題となっている。 貴重な自然環境を損なわないよう市民団体との協働により適切な保全管理作業を行っている。 						進捗状況 <input type="checkbox"/> 順調 <input type="checkbox"/> おおむね順調 <input checked="" type="checkbox"/> やや遅れている <input type="checkbox"/> 遅れている				
遅れている取組の原因	内部要因			外部要因							
施策を取り巻く環境の変化	<ul style="list-style-type: none"> 市は、「白井市第3次環境基本計画や地球温暖化対策実行計画」を策定し、令和4年(2022年)2月にゼロカーボンシティの実現に向けてチャレンジすることを表明した。 国や県の環境政策に係る動向を踏まえ、「気候変動適応や生物多様性」などの新たな施策に取り組む必要がある。 										
課題	喫緊の課題					中長期的な課題					
	<ul style="list-style-type: none"> 市民や事業者が自然環境の大切さを理解し、興味・関心を持ちCO₂排出量の削減・環境保全活動に参画してもらえるようPR方法やイベント内容を工夫する必要がある。 隣接地権者との合意形成が必要となる。 					<ul style="list-style-type: none"> 環境保全の取組に対する効果の発現には長い期間が必要となる。 所定の保全する区域等の自然環境を守り続ける必要がある。 					
施策の方向性(改善策)	短期的な方向性					中長期的な方向性					
	<ul style="list-style-type: none"> 市民団体、大学、環境研究機関との連携による環境学習や環境保全活動を充実させる。 隣接地権者との情報共有、意見交換会を実施する。 					<ul style="list-style-type: none"> 環境学習や環境保全活動などの体験を通じ、幅広い世代が環境の豊かさを楽しみ守る意識が醸成され、未来の環境保全活動を担う人材の育成につながり、豊かなみどりの環境を次世代につなげるまちを形成する。 					
進め方	<input type="checkbox"/> 行政の役割を拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 現在の行政と市民の役割分担・協働を維持 <input type="checkbox"/> 市民の役割・協働を拡大										
	<ul style="list-style-type: none"> 継続して小中学校、市民団体、大学、研究機関等と連携・協働して環境学習や環境保全活動を行う。 環境保全活動を行っている団体の育成・継続のための支援、地元(隣接地権者等)の理解・参画が得られるような施策(仕組み)づくりを検討する。 										

7 2次評価(Check②)&Action②)

白井市行政評価委員会による評価

- ・成果指標では、自然保護活動や環境美化活動に取り組む市民の割合が基準値を大きく上回っているが、引き続き各事業に積極的に取り組む必要がある。
- ・(仮)谷田・清戸市民の森整備事業の整備に係る方針や区域などについては、隣接地権者や環境団体等と十分に調整をして合意形成を図る必要がある。

8 3次評価(Check③)&Action③)

総合計画審議会による評価

総合評価は「B評価(やや優れている)」とし、今後に向けて以下の改善点を提案する。

- ①市、市民、企業等、関係団体同士が連携することで何が出来るかを検討するプラットフォームの形成を図ること。
- ②活動に参加する市民の高齢化が懸念されるが、市としても市民活動が無理なく安全に継続できるよう対応策を講じること。
- ③市民が環境を意識した日常生活を送ることができるようにするための効果的なPRや、新たな担い手の発掘を行うこと。

9 3次評価の改善意見等への対応

【令和6年度までに取り組む事項】

- ①既存の環境保全活動等を実施する団体(9団体)で構成する「白井環境フォーラム実行委員会」の代表者等との意見交換による問題や課題の抽出を行う。
- ②市民総合賠償補償保険や白井市市民活動総合補償保険などの制度や企業等の補助金の周知啓発を行う。健康づくりや仲間づくりなどの視点等を取り入れた検討及び若い世代に対する取り組みの周知及び活動への勧誘を行う。
- ③広報紙、ホームページ、SNS及びまちづくりサポートセンターの機能を活用した地球温暖化の問題等と併せた市民等への活動の紹介や参加の呼びかけを行うとともに、既存の広報手段の他にも効果的なPR手法があるのか検討を行う。

【中長期的に取り組む事項】

- ①白井環境フォーラム実行委員会を、年間を通して定期的で開催し、市民、団体、事業者及び市の役割などについて定期的に意見交換ができる場とする。
- ②いろいろな主体がみどりの保全活動に興味をもち参加したくなるような講座等を開催する。市民活動が無理なく安全に継続できるようクラウドファンディングの検討や若い世代の人材育成を行う。
- ③「今」の環境を守るため、行動変容を促せるような体験講座や親子教室を開設するとともに、地球温暖化防止の必要性の啓発を行う。